

神田警察通り沿道賑わいガイドライン の実現



地域の様々な方々が参加し、 連携する取組み



具体的には・・・

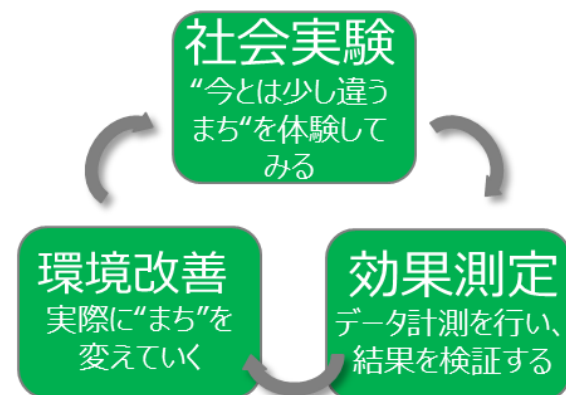
1. まちの価値、特色をつかんでいくためのワークショップや データ計測の実施

- ・人々の行動データ、環境データを収集、分析
- ・歩道や車道を活用した賑わい空間の創出、検証
- ・沿道建物と公共空間の連携による賑わいの創出・検証

2. 質の高いまちを考えていくための社会実験による実体験

- ・神田警察通り沿道の文化を活かしたコンテンツの発掘、検証
- ・これまでなかったライフスタイルを豊かにする新しいコンテンツの提案・検証
- ・通りを利用する人（住む人、働く人、訪れる人）のニーズとのマッチングの検証

【プロセス】



Theme Planning Effect measurement

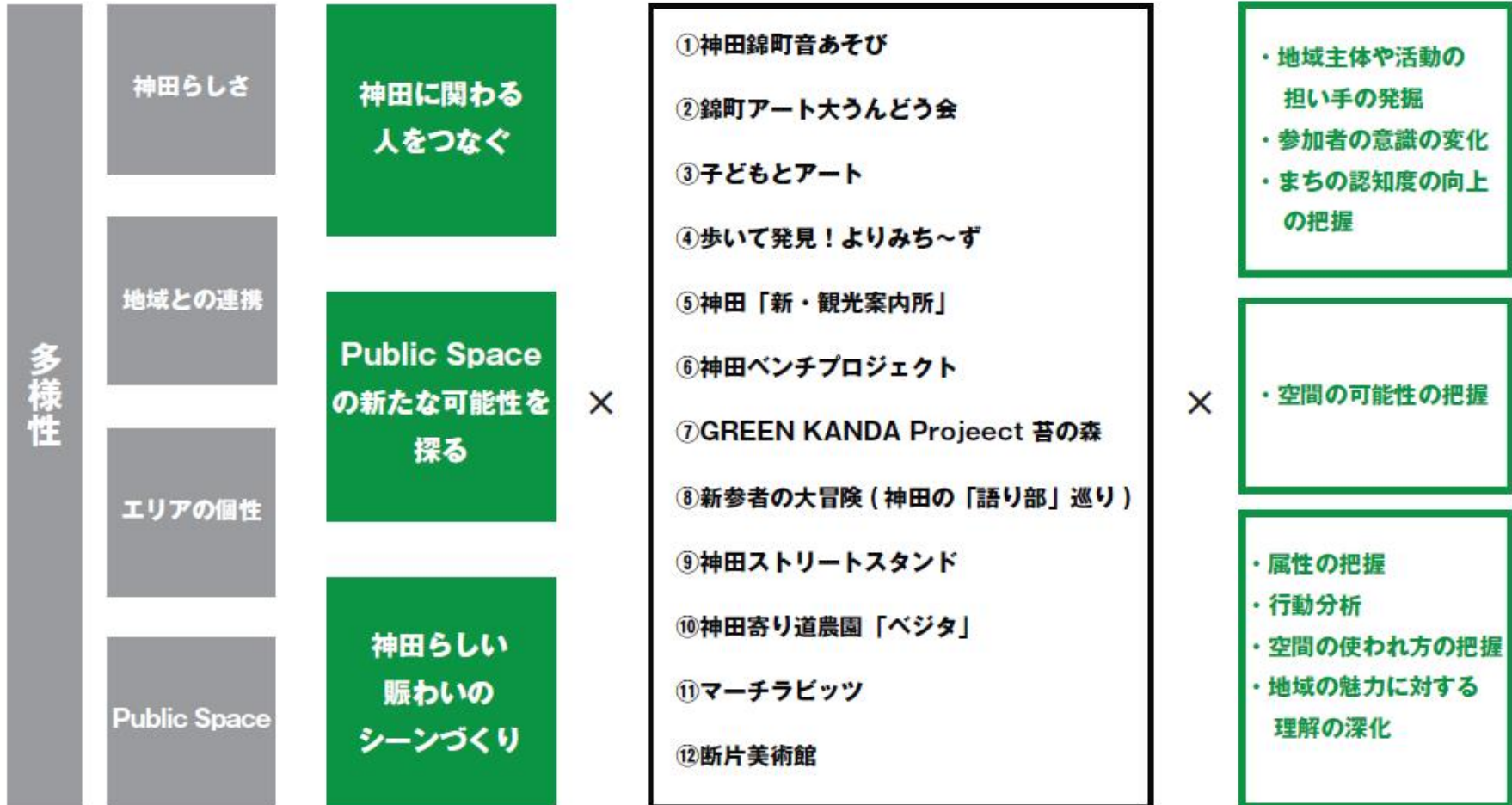
テーマ × 企画 × 効果測定

社会実験の視点

社会実験のねらい

12の企画プロジェクト

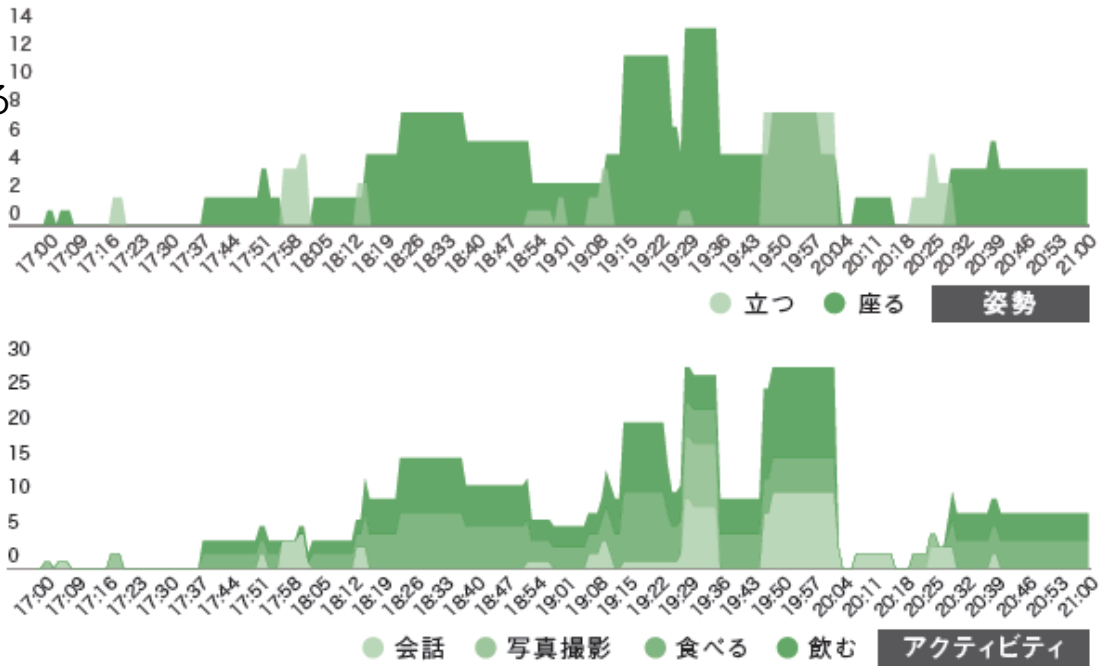
効果測定



効果測定（抜粋）

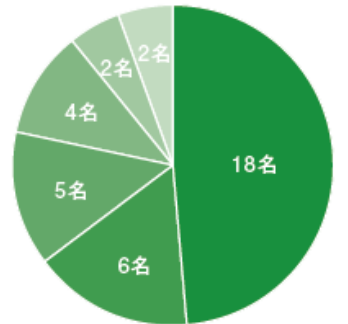
道路のアクティビティ

- ・イスを置き、滞留空間をつくと人は座る
- ・会話、飲食などの交流がうまれる空間に変わる



ベンチプロジェクト

- ・使われ方はちょっとした普段の行為
- ・短時間の利用が多い



日常のアクティビティ
＝場所限定ではなく恒常的に必要



2018.4.21

報告会&交流会

参加人数 65人

町会 12名、地元当日参加 4名、社会実験PJ参加者 21名、企画支援企業 7名、学識・学生 5名、その他 4名、スタッフ 12名

- 1 本日の目的と進め方
- 2 乾杯
- 3 町会、商店会の紹介
- 4 社会実験の効果測定
- 5 質疑応答
- 6 5グループに分かれて交流
～地域と密に連携した取り組みを目指すためには（テーマと方法）～
- 7 各グループの発表
- 8 まとめ

将来神田を担う子供達のために
まちを考えていきたい

まちが変化するなかで
どう賑わいをつくっていくか

1階レベルの
賑わいの
工夫

オフィスワーカーや
大手町との関係も大事

警察通りをもっと人のための場に

社会実験は
人がつながるきっかけ

まちに
関われる機会

まちの人が主役

賑わうにも
場所がない

まちぐるみで
まちづくり議論を

人や活動に横ぐし

地域の一体感

未来のビジョンが必要

